



平成24年6月22日に洪水調節を行いました

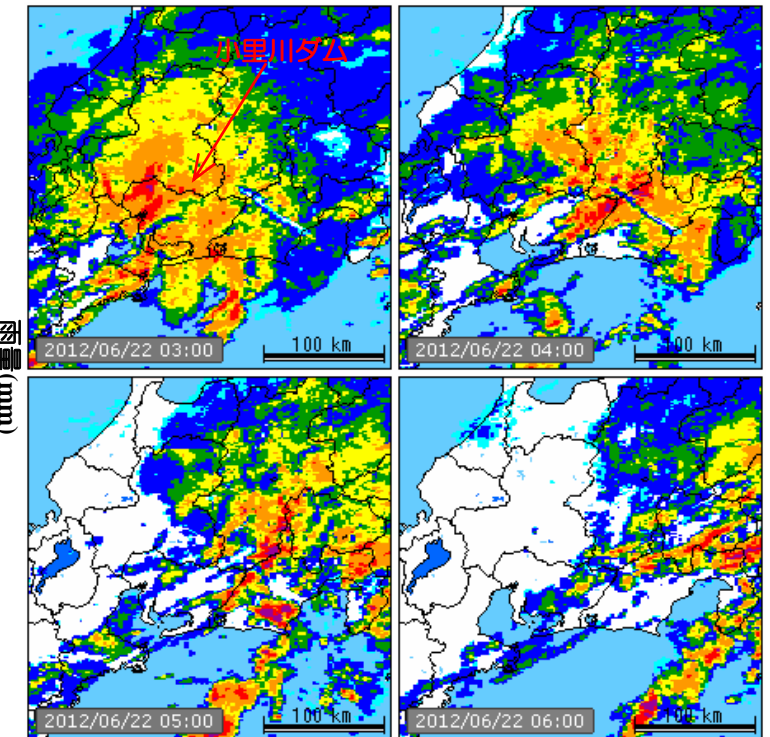
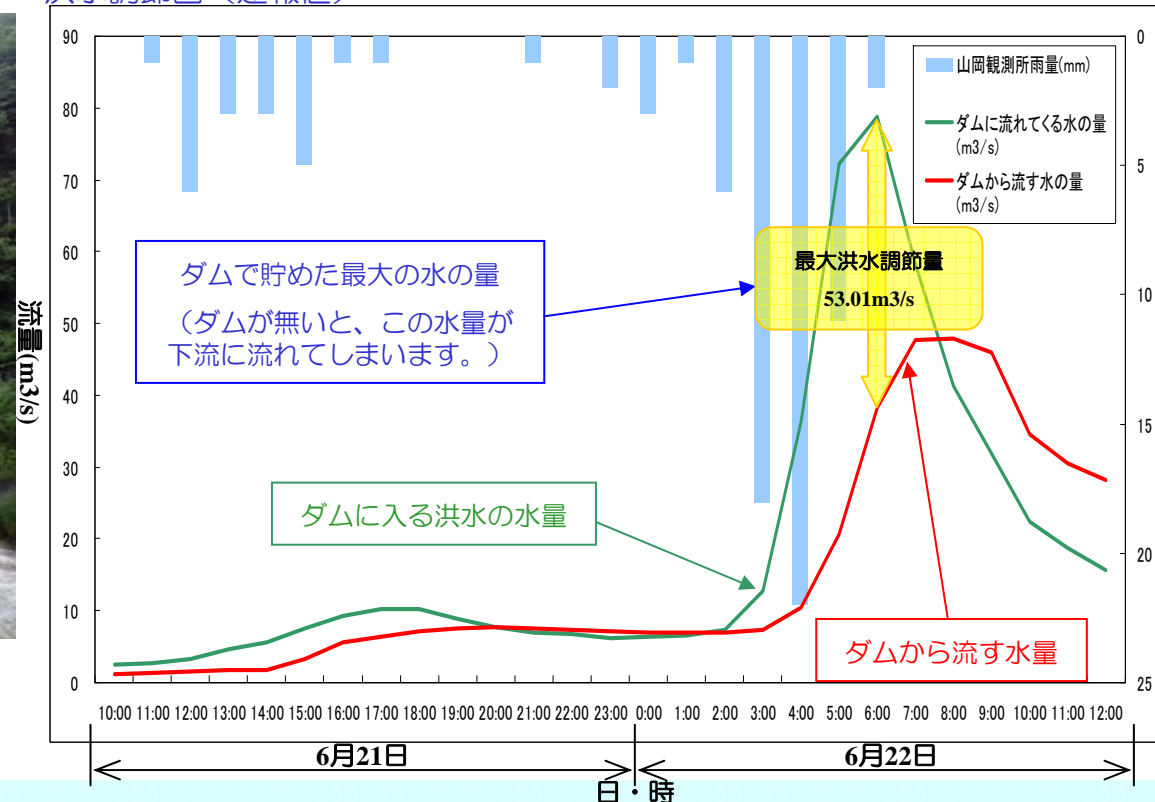
～59万 m^3 の水をダム湖に貯め、洪水を調節しました～

平成24年6月21日から22日にかけて低気圧の通過に伴う降雨があり、22日の3時から4時にかけて東海地方の広い範囲で強い降雨がありました。小里川ダム上流の恵那市山岡町ではこの1時間に22mmの降雨を観測しました。この雨に対し、小里川ダムでは、最大で毎秒53.01 m^3/s の洪水を調節しました。



6月22日AM9時30分ごろの放流の様子

洪水調節図(速報値)

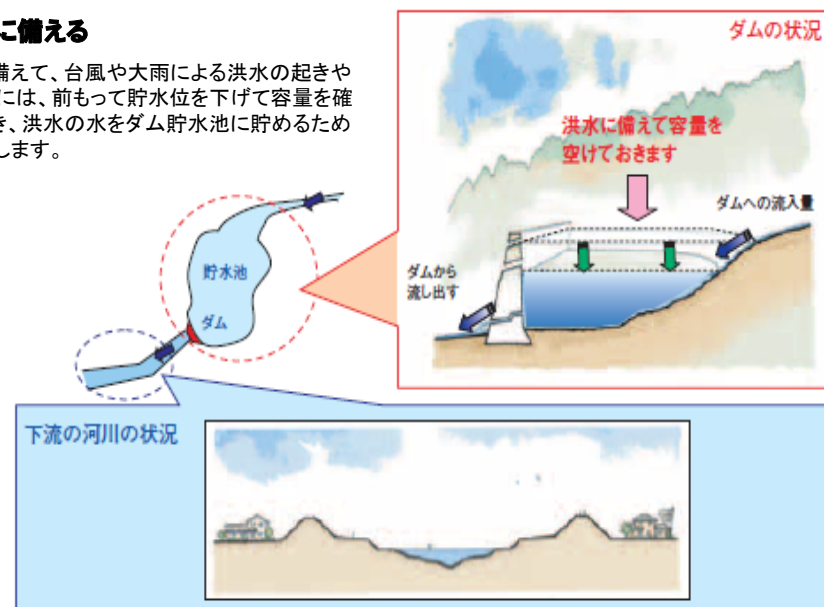


6月22日のレーダー画像(雨量)

<ダムによる洪水調節のしくみ>

①洪水に備える

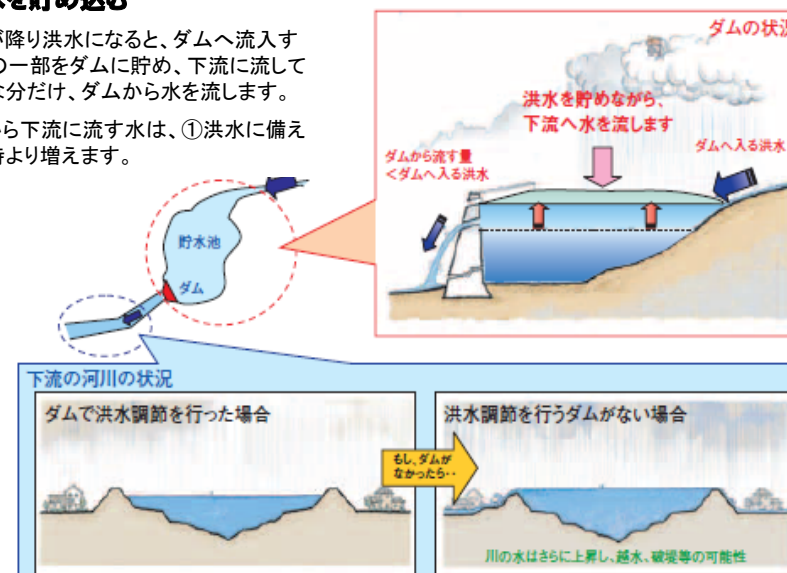
洪水に備えて、台風や大雨による洪水の起きやすい季節には、前もって貯水位を下げ容量を確保しておき、洪水の水をダム貯水池に貯めるための準備をします。



②洪水を貯め込む

大雨が降り洪水になると、ダムへ流入する洪水の一部をダムに貯め、下流に流しても安全な分だけ、ダムから水を流します。

ダムから下流に流す量は、①洪水に備えている時より増えます。



③計画規模を超える洪水への対応

異常な豪雨により、計画よりも大きい量の洪水がダム貯水池へ流れ込むことがあります。ダムでも精一杯、②のように洪水を貯めつつ下流へ流す操作を行います。ダムに貯めることができる水量には限界があります。

このような場合には、下流に流す量を徐々に増加させ、貯水池に入ってくる水量と同じ量を下流に流すよう(自然河川状態)にします。

